



男女共同参画社会づくりに関する 県民意識調査

概 要 版



沖縄県では、県民の男女共同参画に関する意識と実態を把握し、
現行の県計画の見直しや今後の施策を検討する上で基礎資料とするために調査を行いました。
※調査設計等の概要は、最終ページをご覧ください。

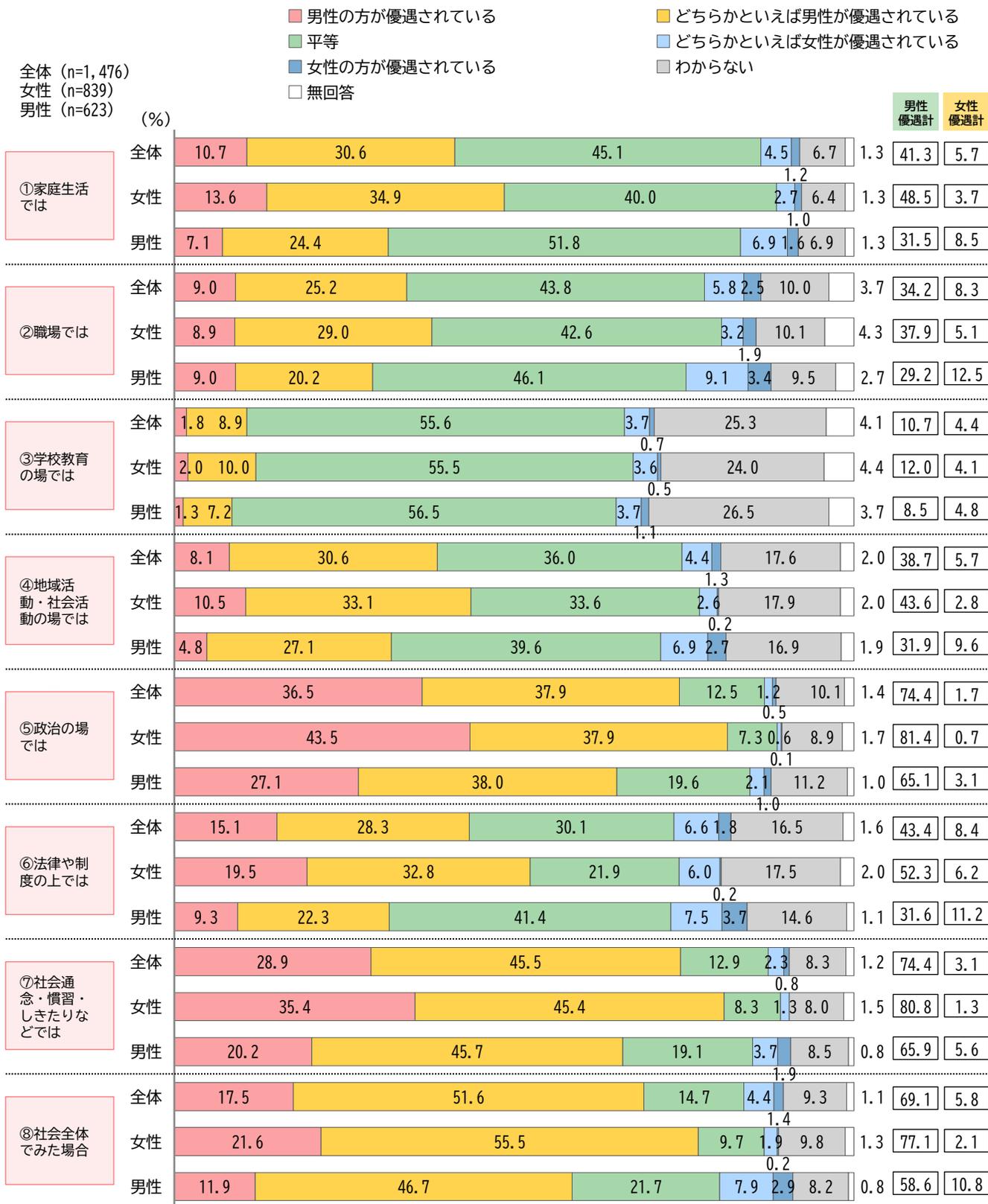


01 男女平等に関する意識について

男女の地位の平等感

—①～⑧までの分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか？—

- 男女の地位の平等感について「平等」感が高いのは「③学校教育の場」で55.6%となっています。
- 全ての分野で『男性優遇』が『女性優遇』を上回っており、「⑤政治の場」や「⑦社会通念、慣習、しきたりなど」で7割を超えています。

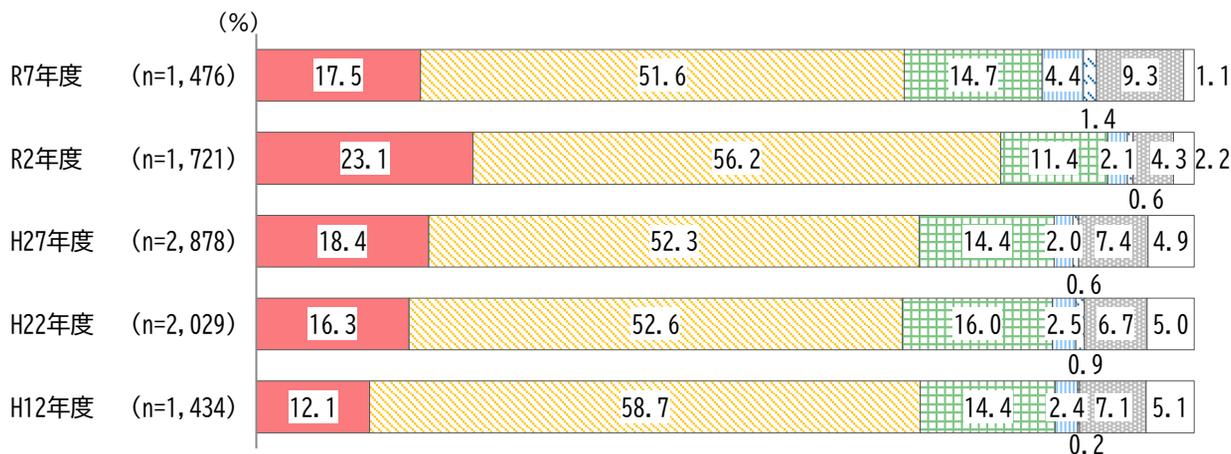


01 男女平等に関する意識について

社会全体における男女の地位の平等感の推移

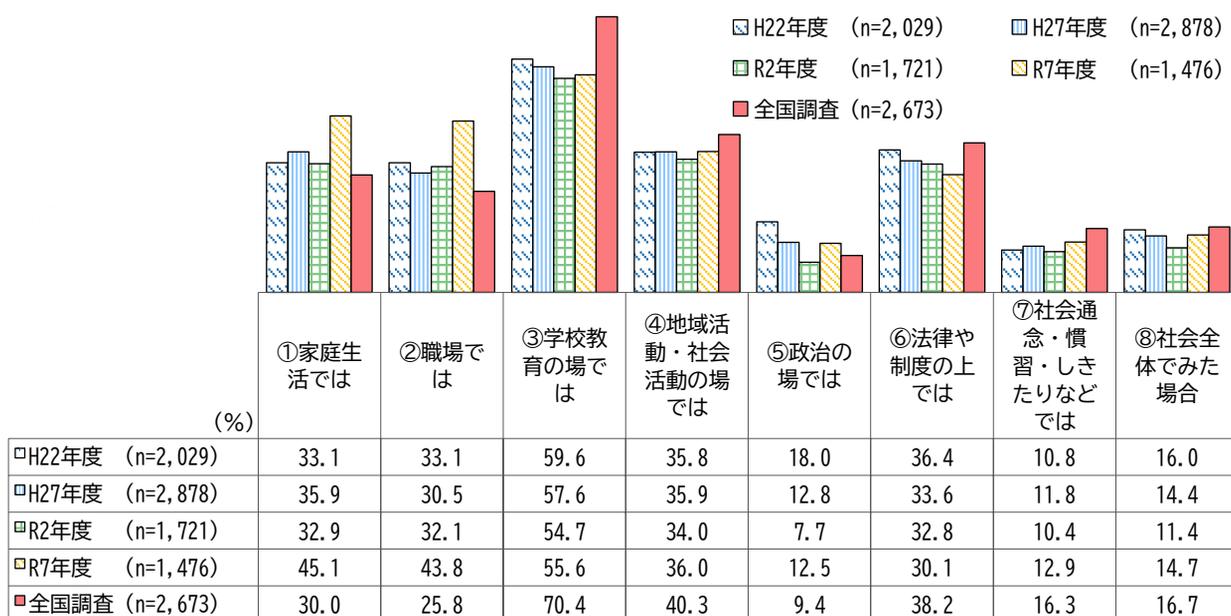
- 社会全体の「平等」感について、男性が優遇されていると感じる割合は各年でおおよそ7割と高い水準で推移しており、「平等」と感じる割合は1割台にとどまっています。

- 男性の方が優遇されている
- どちらかと言えば男性が優遇されている
- 平等
- どちらかと言えば女性が優遇されている
- 女性の方が優遇されている
- わからない
- 無回答



各分野で「平等」と答えた人の推移・全国比較

- 「①家庭生活」「②職場」では、R2年度から大きく上昇し、過去調査で最も平等感が高くなっています。
- 全国調査と比べると、「①家庭生活」「②職場」では全国を上回る一方で、「③学校教育の場」「⑥法律や制度の上」の領域で低くなっています。



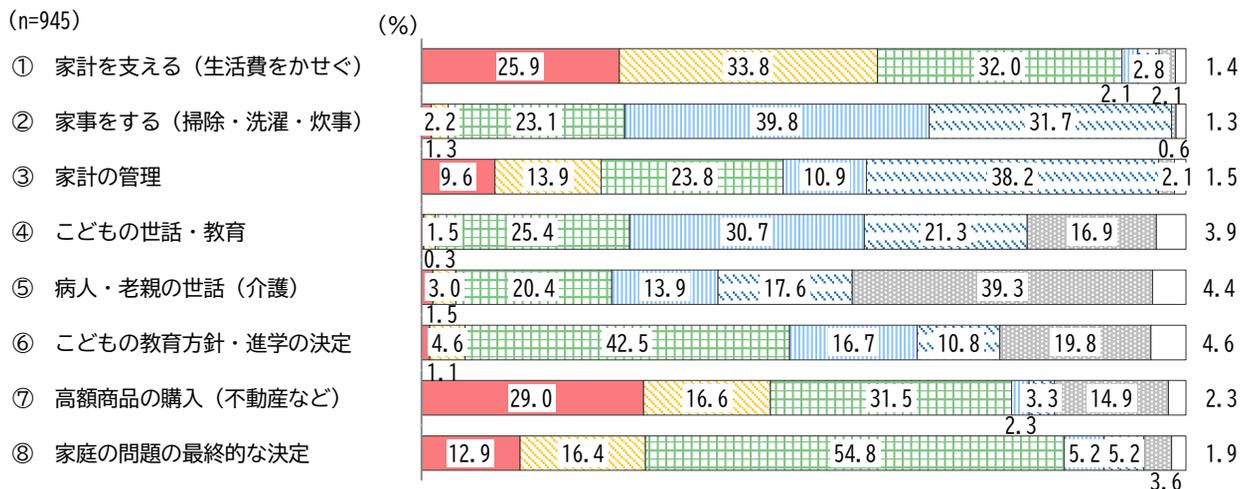
※ 比較する全国調査については、内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」（令和6年9月）

02 家庭生活について

家庭内の役割分担について ー①～⑧までの事柄で、あなたの家庭では主にどなたが行っていますか？ー

■ 夫と妻が同じ程度分担しているものとしては、「⑧家庭の問題の最終的な決定」が54.8%と最も高くなっています。

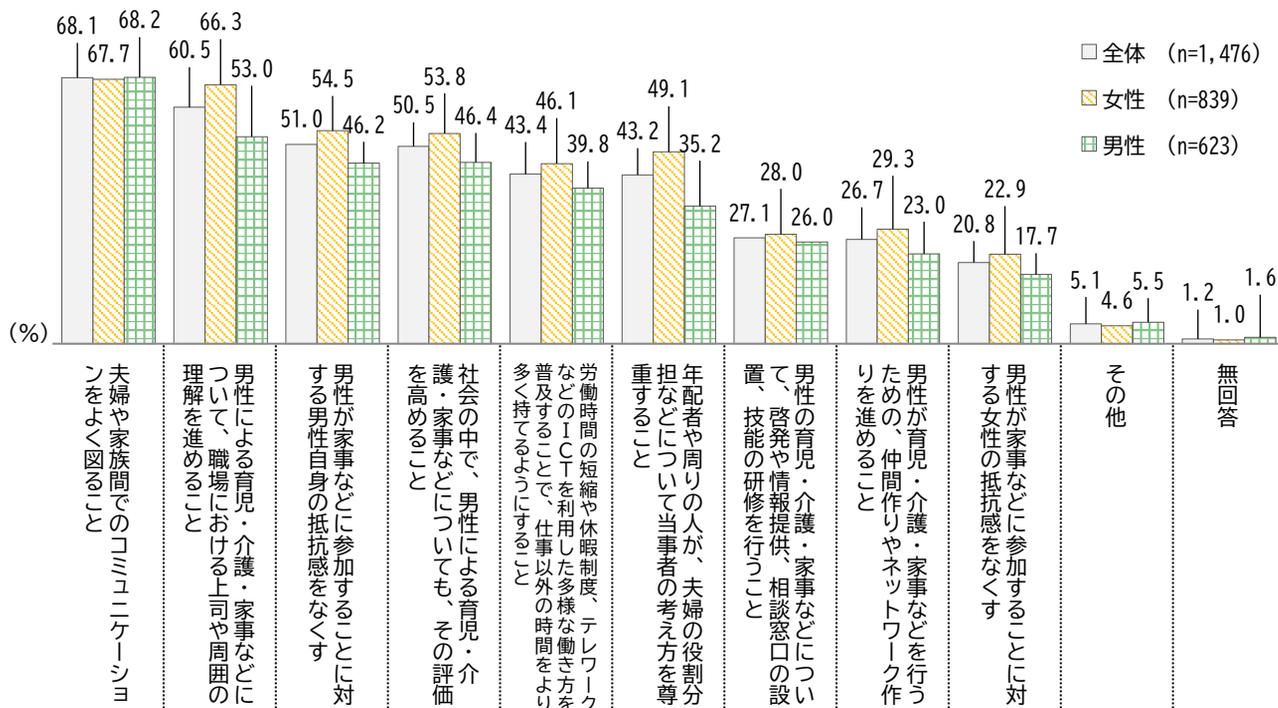
- 主に夫が行う
- 主に夫が行い、妻が一部負担
- 夫と妻が同じ程度負担
- 主に妻が行い、夫が一部負担
- 主に妻が行う
- その他または非該当
- 無回答



男性が家事、育児、介護、地域活動に参加するために必要なこと

ーあなたは、今後男性が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか？ー

- 男女とも「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」の割合が最も高くなっています。
- 女性では、男性に比べ、職場の理解や年配者の意識など、意識面での改善が必要と感じている割合が高くなっています。

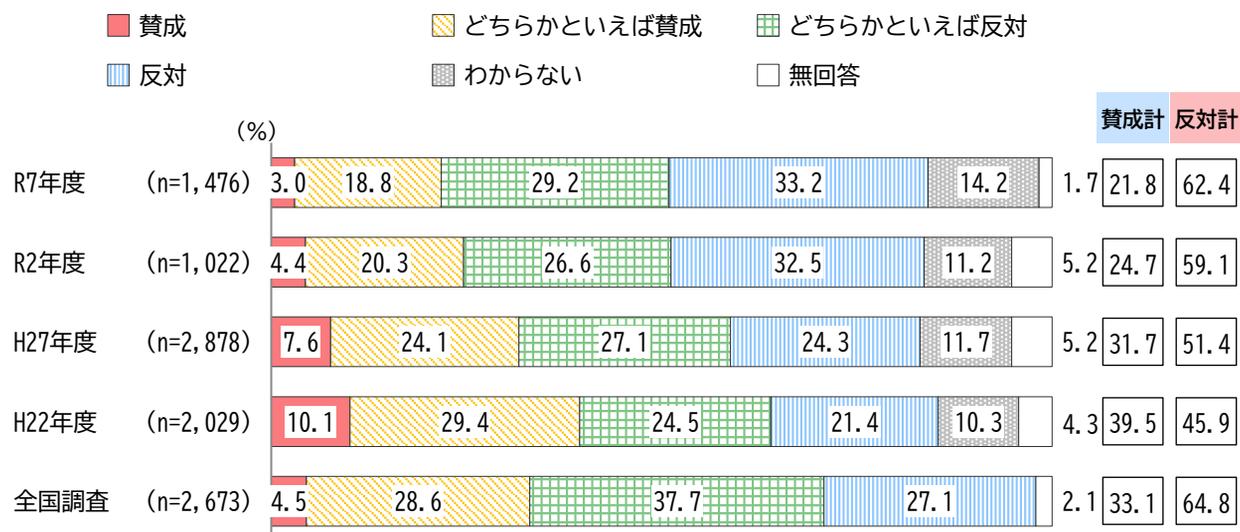


02 家庭生活について

夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

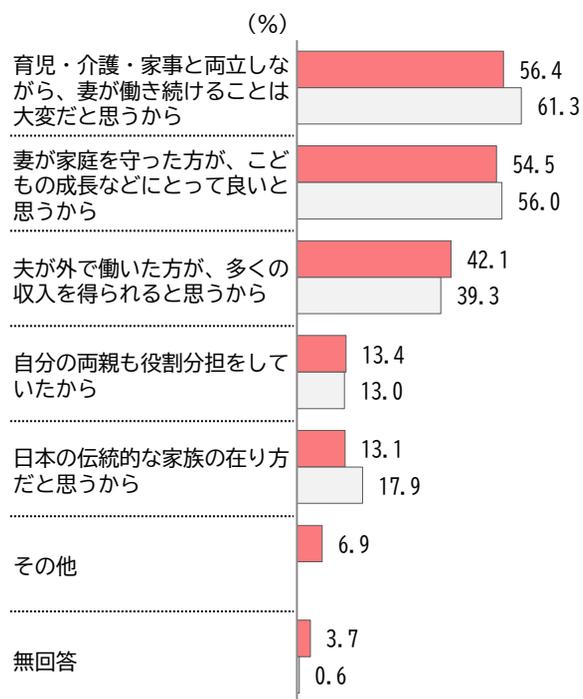
—結婚や家庭生活に関するあなたの考えに近いものをお答えください。—

- 「反対」の割合は増加傾向にあり、全国調査と比較しても高い傾向にあります。



賛成の理由

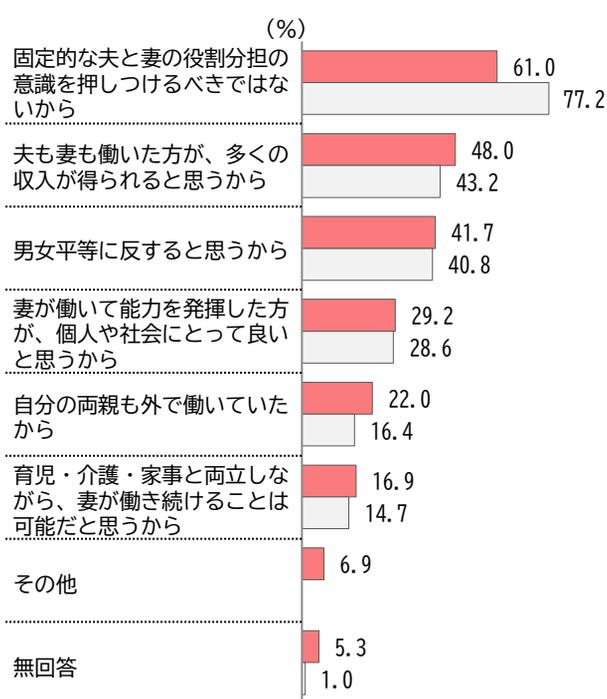
- 沖縄県では全国調査と比べ、育児・介護・家事との両立との大変さや、伝統的な家族観を理由とする割合が低くなっています。



■ 沖縄県 (n=321) □ 全国調査 (n=884)

反対の理由

- 沖縄県では全国調査と比べ、共働きによる収入や両親も共働きであったことを理由とする割合が高くなっています。

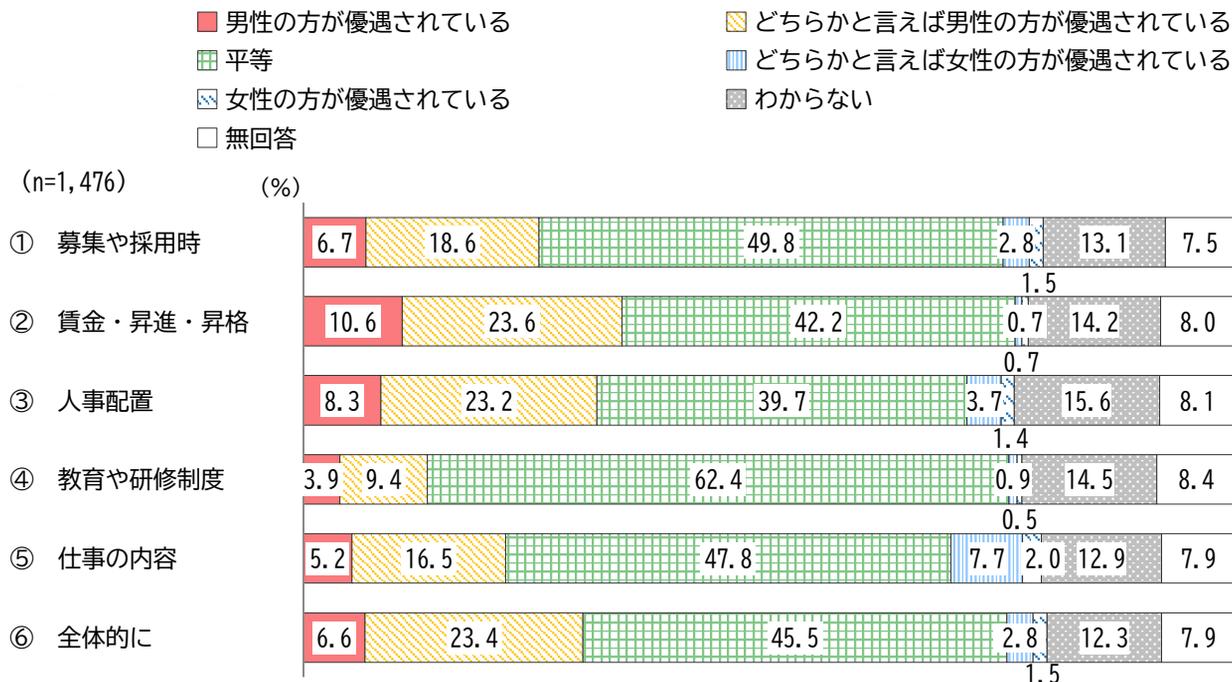


■ 沖縄県 (n=921) □ 全国調査 (n=1,732)

03 仕事について

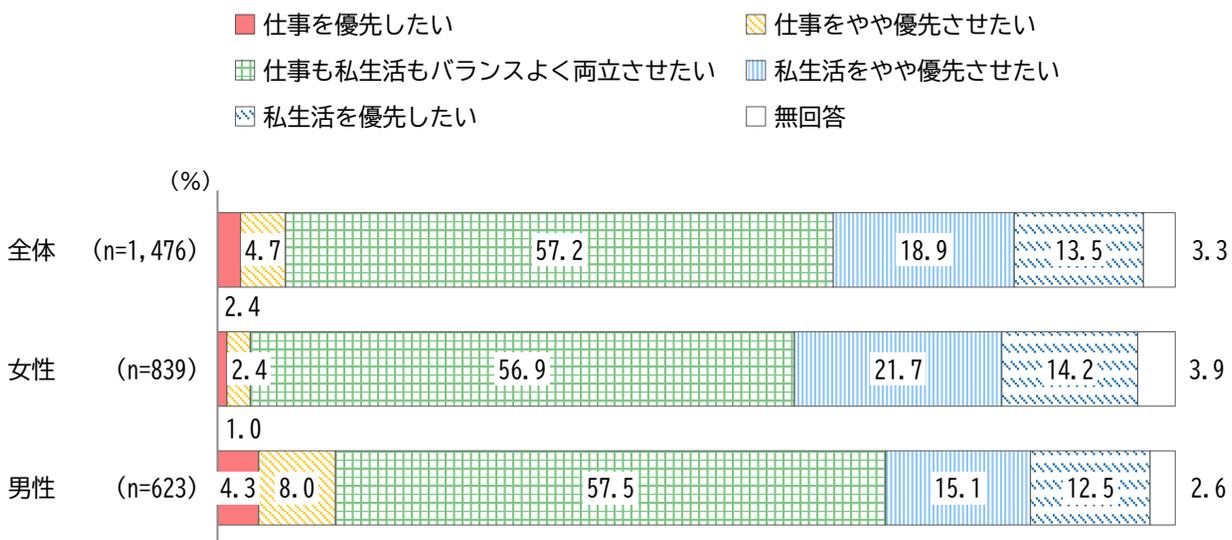
職場における男女の待遇 —①～⑥までの事柄で、あなたの職場では性別によって差があると思いますか？—

■ 職場における男女の待遇について「②賃金・昇進・昇格」「③人事配置」などは「男性が優遇されている」との回答の割合が比較的高くなっています。



ワーク・ライフ・バランスについて —あなたは、仕事と私生活でどちらを優先したいと思いますか？—

■ 仕事と私生活の優先度については「仕事も私生活もバランスよく両立させたい」が全体では6割弱となっています。男性では仕事を優先、女性では私生活を優先したい割合が高くなっています。

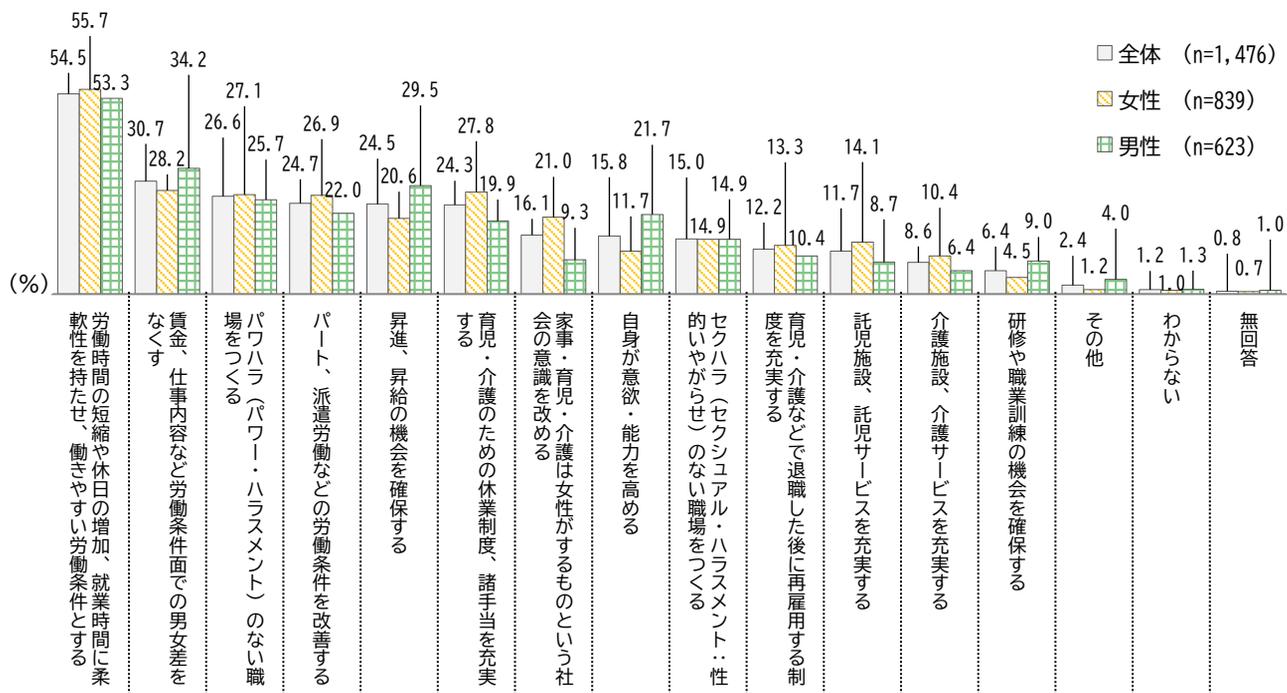


03 仕事について

働いている人が仕事を辞めずに働き続けるために必要なこと

—あなたは、働いている人が仕事を辞めずに働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか？—

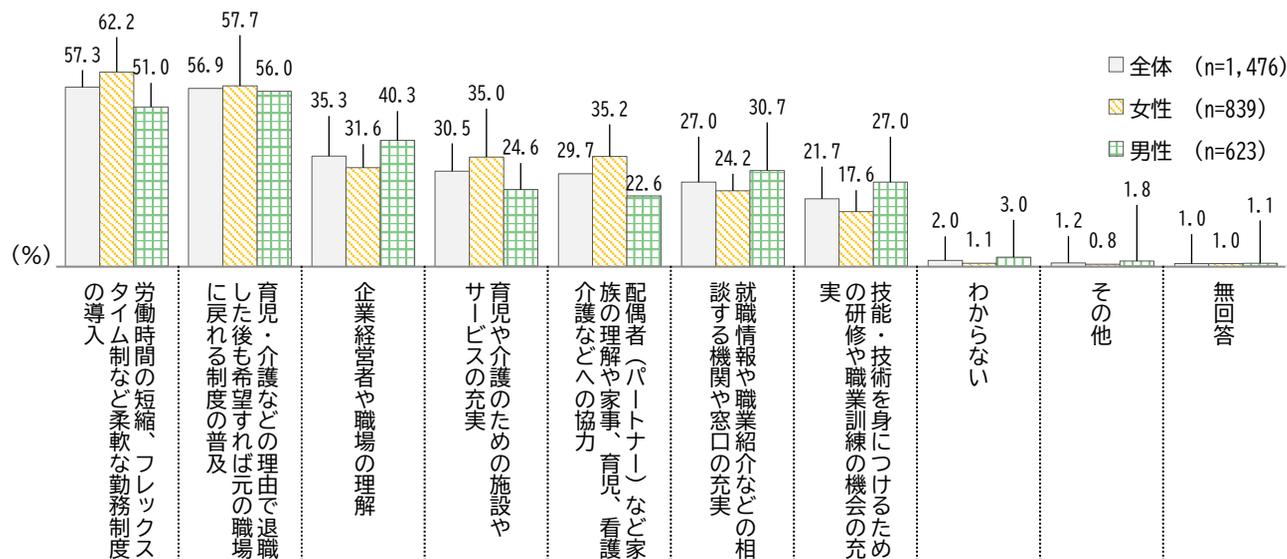
- 全体では、「労働時間の短縮や休日の増加、就業時間に柔軟性を持たせ、働きやすい労働条件とする」の割合が最も高くなっています。
- 女性では、家事・育児・介護に関する意識改革に関することやサービスの充実化が男性よりも高くなっています。



仕事を辞めた人が再就職しやすくするため必要なこと

—あなたは、子育てや介護を理由に仕事を辞めた人が再就職しやすくするためには、どのようなことが必要だと思いますか？—

- 女性では「労働時間の短縮、フレックスタイム制など柔軟な勤務制度の導入」の割合が最も高く、男性では「育児・介護などの理由で退職した後も希望すれば元の職場に戻る制度の普及」の割合が最も高くなっています。

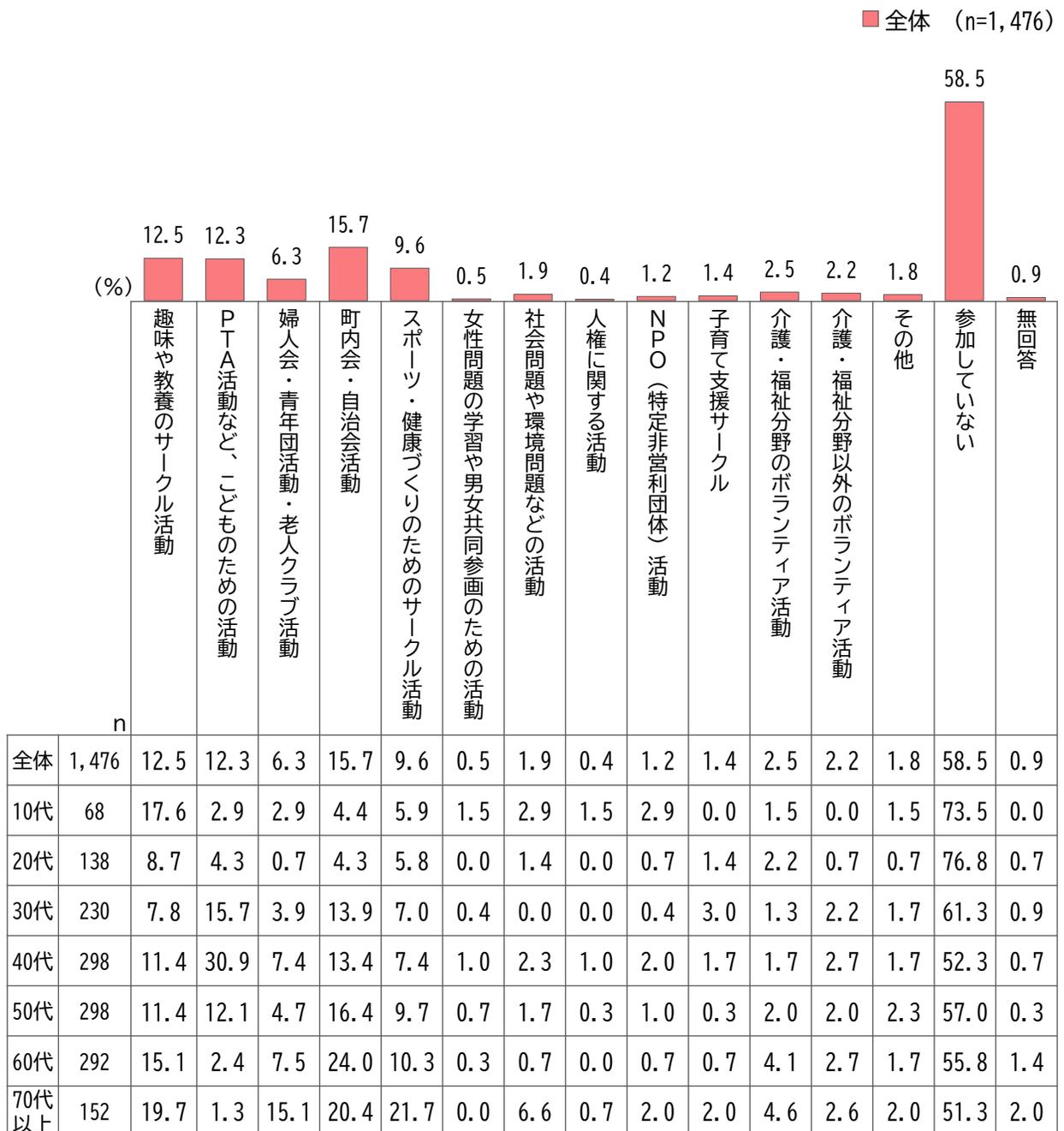


04 地域活動について

地域活動への参加状況

—あなたは、地域社会において、現在どのような活動に参加していますか？—

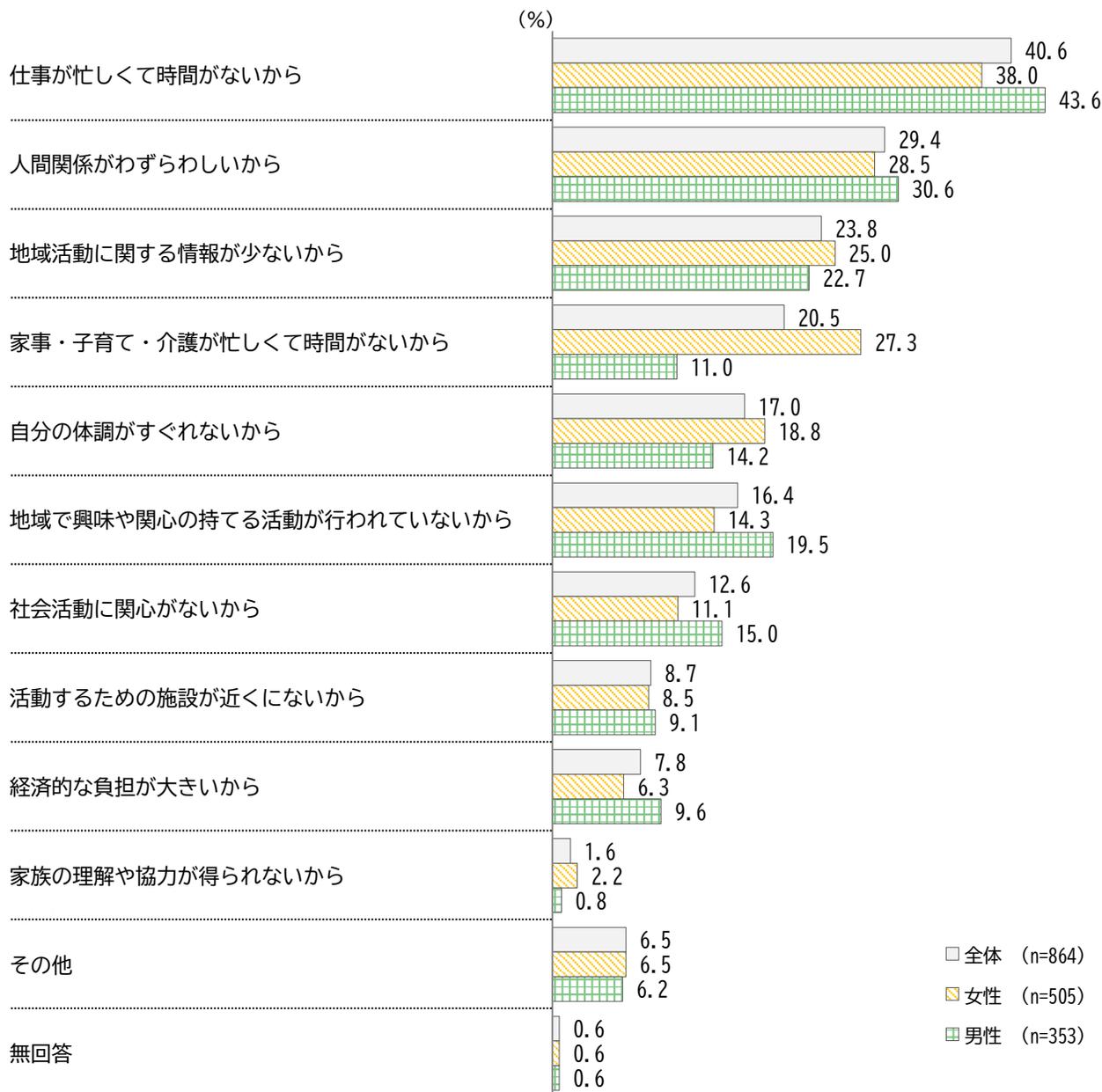
- 地域活動への参加状況について全体では、「参加していない」が6割弱となっており、特に10～30代の若年層で高くなっています。
- 全体で最も多い地域活動は「町内会・自治会活動」で、次いで「趣味や教養のサークル活動」となっています。



04 地域活動について

地域活動へ参加しない理由

- 地域活動へ参加していない理由について全体では、「仕事が忙しくて時間がないから」の割合が最も高くなっています。
- 女性では男性と比べて「家事・子育て・介護が忙しくて時間がないから」の割合が16.3ポイント高くなっています。
- 一方で、男性では社会活動への関心度の低さや、仕事が忙しくて時間がない、興味関心の持てる活動がないといった回答の割合が女性よりも高いです。



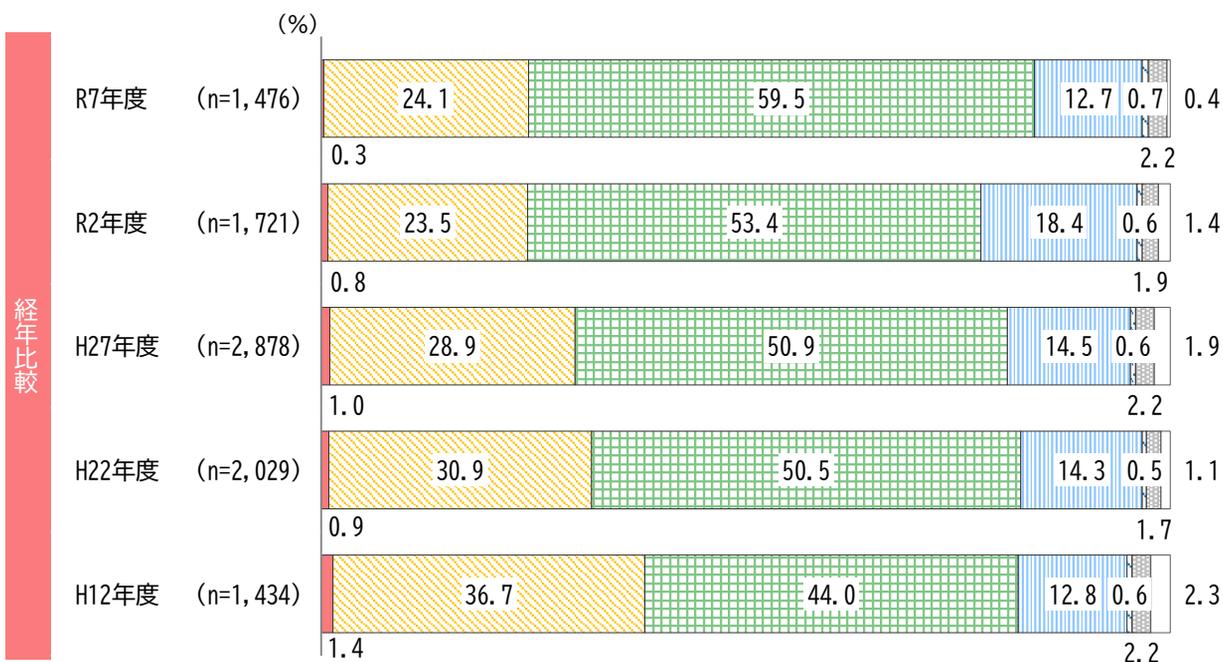
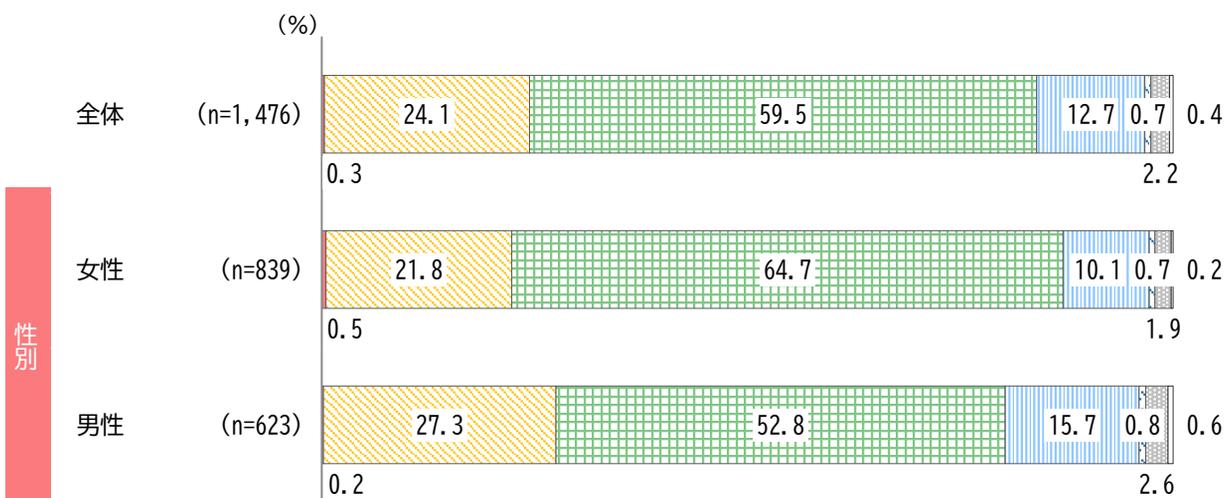
05 老後について

高齢者の介護支援

—あなたは、高齢者の介護支援について、どのようにお考えですか？—

- 高齢者の介護支援について全体では、「家族だけでは過重な負担がかかるので社会が積極的に支援する必要がある」の割合が最も高く、経年比較においても増加傾向がみられます。

- 基本的には家族が行うことであり、社会が支援する必要はない
- 基本的には家族が行うことではあるが、社会がある程度支援する必要がある
- 家族だけでは過重な負担がかかるので社会が積極的に支援する必要がある
- 家族は可能な範囲で行い、基本的には社会が担うべきである
- その他
- わからない
- 無回答



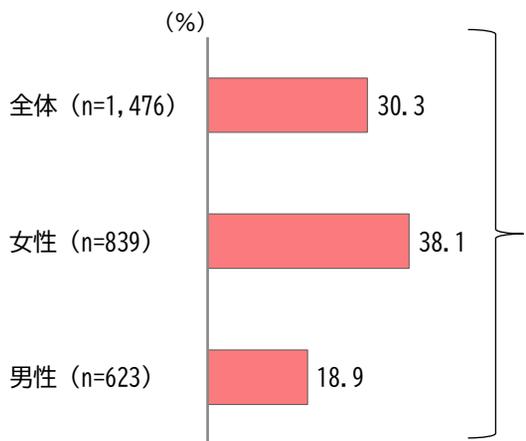
06 セクハラ、DVなどの暴力について

セクハラ被害の経験

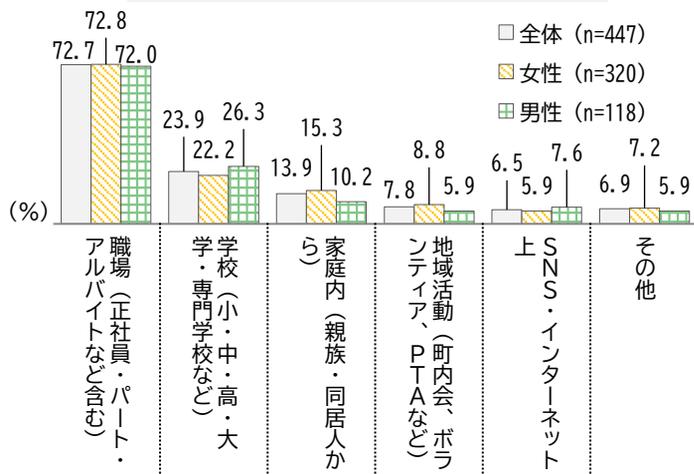
—あなたがセクシュアル・ハラスメント(性的な言動による不快な経験)を受けたことがある場所についてお答えください。—

- セクハラを受けた経験があると回答した人は、女性で38.1%、男性でも18.9%となっている。また、経験者のうち、男女ともに「職場(正社員・パート・アルバイトなどを含む)」で受けた割合が最も高くなっています。

セクハラを受けたことがある人の割合

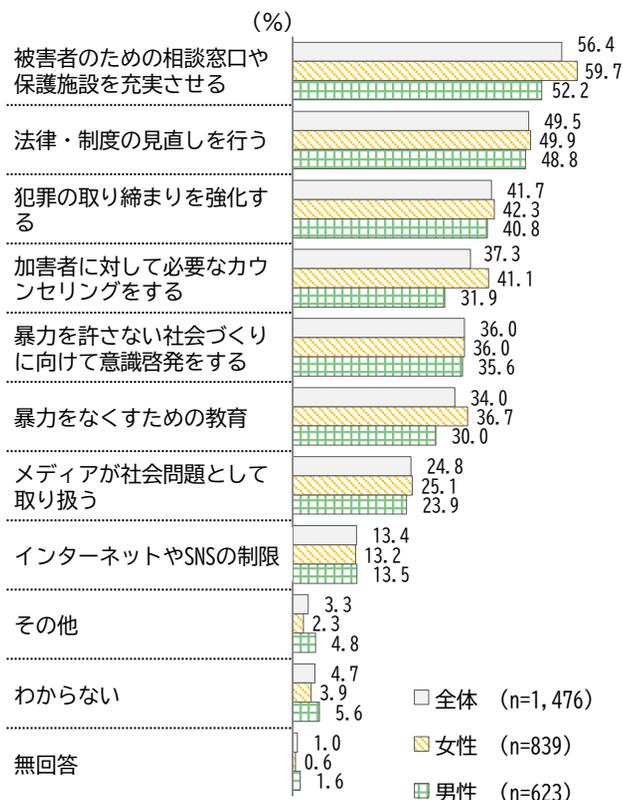


セクハラを受けた場所



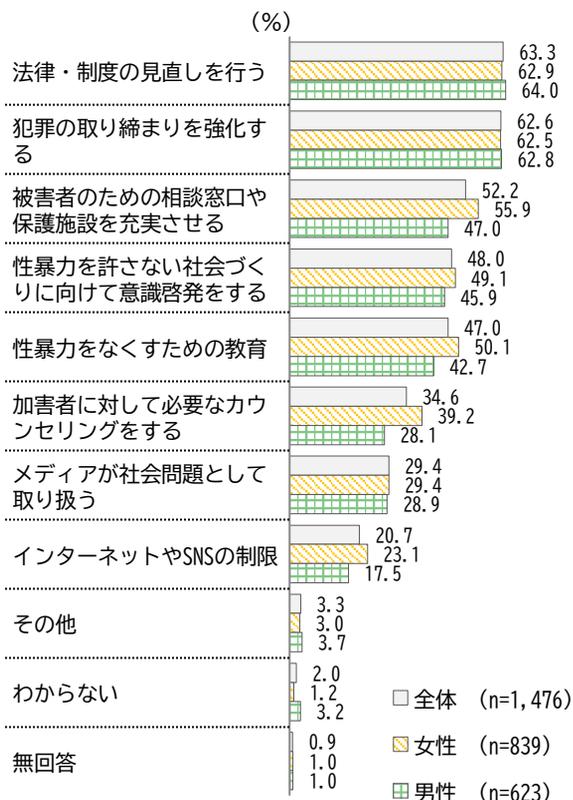
配偶者からの暴力をなくすために必要な取組

- 全体では、「被害者のための相談窓口や保護施設を充実させる」の割合が最も高くなっています。



性暴力をなくすために必要な取組

- 全体では、「法律・制度の見直しを行う」の割合が最も高くなっています。



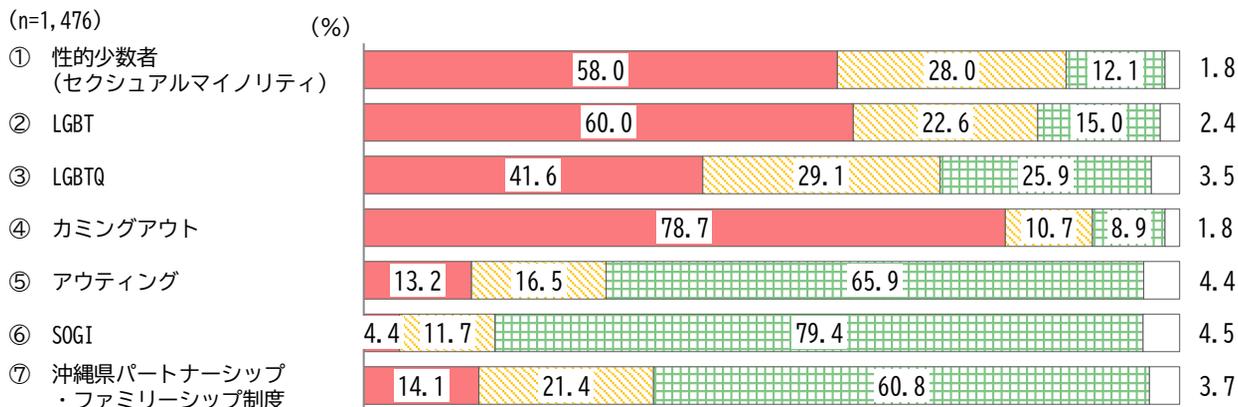
07 性の多様性について

性の多様性についての認知

—①～⑦までの「性の多様性」に関連する言葉について知っていますか？—

- 性の多様性に関する言葉について認知度が高いのは「④カミングアウト」「①性的少数者（セクシュアルマイノリティ）」「②LGBT」となっています。
- 一方、「⑥SOGI」は最も認知度が低くなっています。

■ 聞いたことがあり、意味も知っている ■ 聞いたことはあるが、意味は知らない ■ 知らない □ 無回答

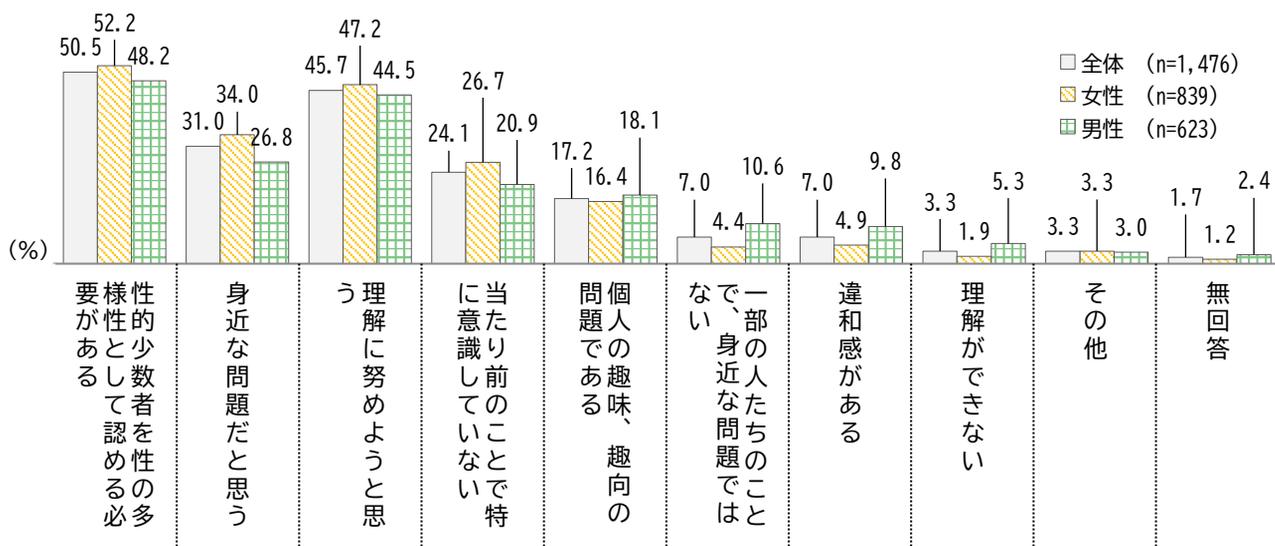


セクシュアルマイノリティ	同性が好きの人や、割り当てられた性別に違和感を覚える人（性同一性障害を含む）などの人々のことをいいます。「性的マイノリティ」ともいいます。
LGBT	L（レズビアン）：女性の同性愛者 G（ゲイ）：男性の同性愛者 B（バイセクシュアル）：両性愛者 T（トランスジェンダー）：割り当てられた性別に違和感を覚える人
LGBTQ	LGBTにあてはまらない人も含めた全ての性的少数者を表す言葉
カミングアウト	自分が性的マイノリティであることを打ち明けること
アウティング	本人の同意なしにその人のセクシュアリティを勝手に公表すること
SOGI（ソジ）	性的指向（好きになる相手の性）と性自認（こころの性）を意味する言葉で、全ての人が持っているものです。
沖縄県パートナーシップ・ファミリーシップ制度	お互いを人生のパートナーとして認め合ったお二人が、日常生活において継続的に協力しあうことを約束した関係であることを県に対して届出し、県がその届出書を受理したことを証明するものです。

性の多様性についての考え方

—あなたは、性の多様性について、どのようなお考えをお持ちですか？—

- 全体では「性的少数者を性の多様性として認める必要がある」の割合が最も高く、ついで「理解に努めようと思う」となっています。

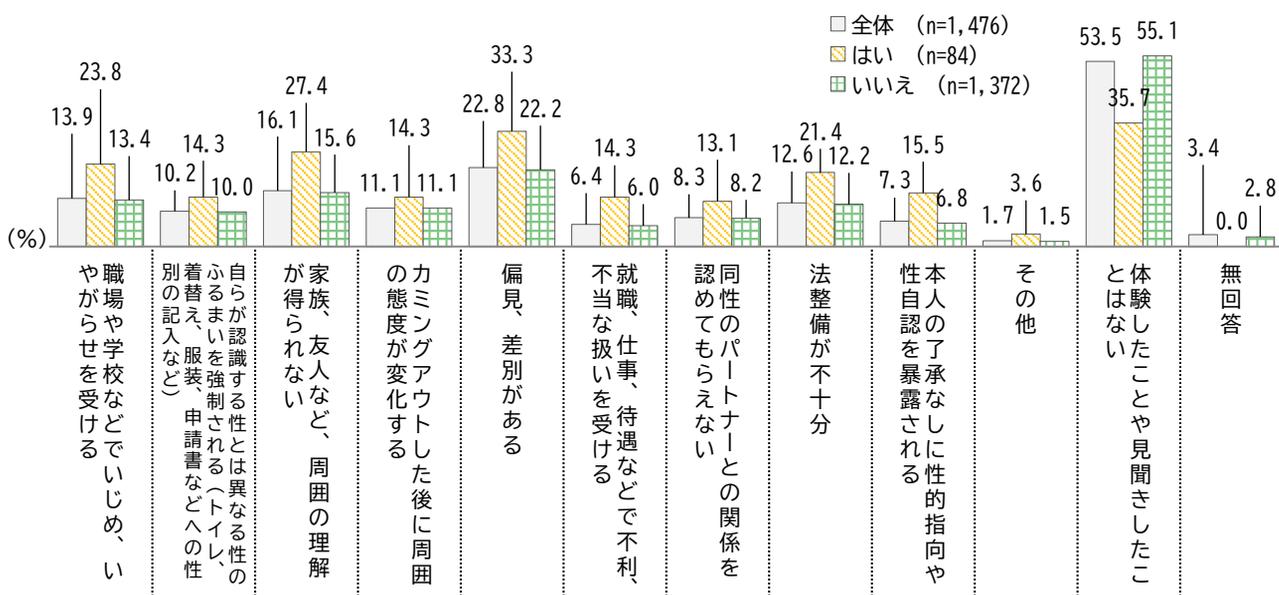


07 性の多様性について

性的少数者に関して体験したことや見聞きしたこと (自分の体の性、心の性または性的指向に悩んだ経験の有無別)

—あなたは、今までに自分の体の性、心の性または性的指向に悩んだことがありますか？—
—あなたが性的少数者に関して体験したことや、身の回りで見聞きしたのはどのようなことですか？—

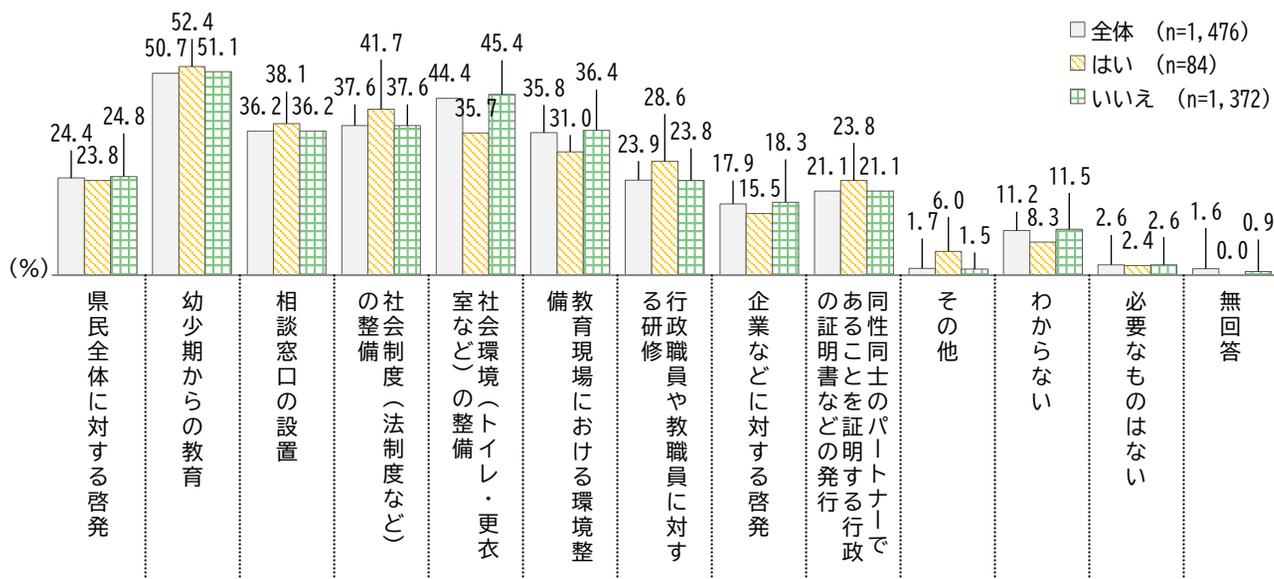
- 今までに自分の体の性、心の性、または性的指向に悩んだことがある人（「はい」の回答）は、悩んだことのない人（「いいえ」の回答）に比べて「偏見、差別がある」と感じている割合が高くなっています。



性の多様性に関する必要な取組 (自分の体の性、心の性または性的指向に悩んだ経験の有無別)

—あなたは、今までに自分の体の性、心の性または性的指向に悩んだことがありますか？—
—あなたは、性の多様性に関する取組としてどのようなことが必要だと思いますか？—

- 今までに自分の体の性、心の性、または性的指向に悩んだことがある人（「はい」の回答）は、「幼少期からの教育」の割合が最も高くなっています。



08 男女共同参画行政について

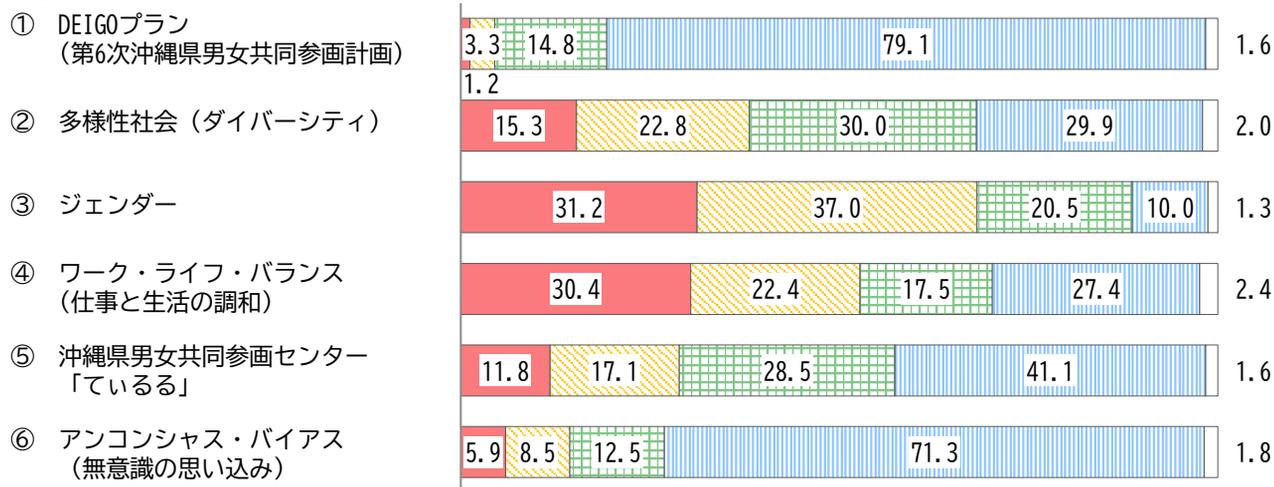
男女共同参画に関する言葉の認知度

①～⑥の言葉を、あなたはどのくらい知っているかお答えください。

男女共同参画に関する言葉について認知度が高いのは「③ジェンダー」「④ワーク・ライフ・バランス」となっています。

■ 内容もよく知っている ■ 内容は少し知っている ■ 聞いたことはあるが内容は知らない ■ 知らない □ 無回答

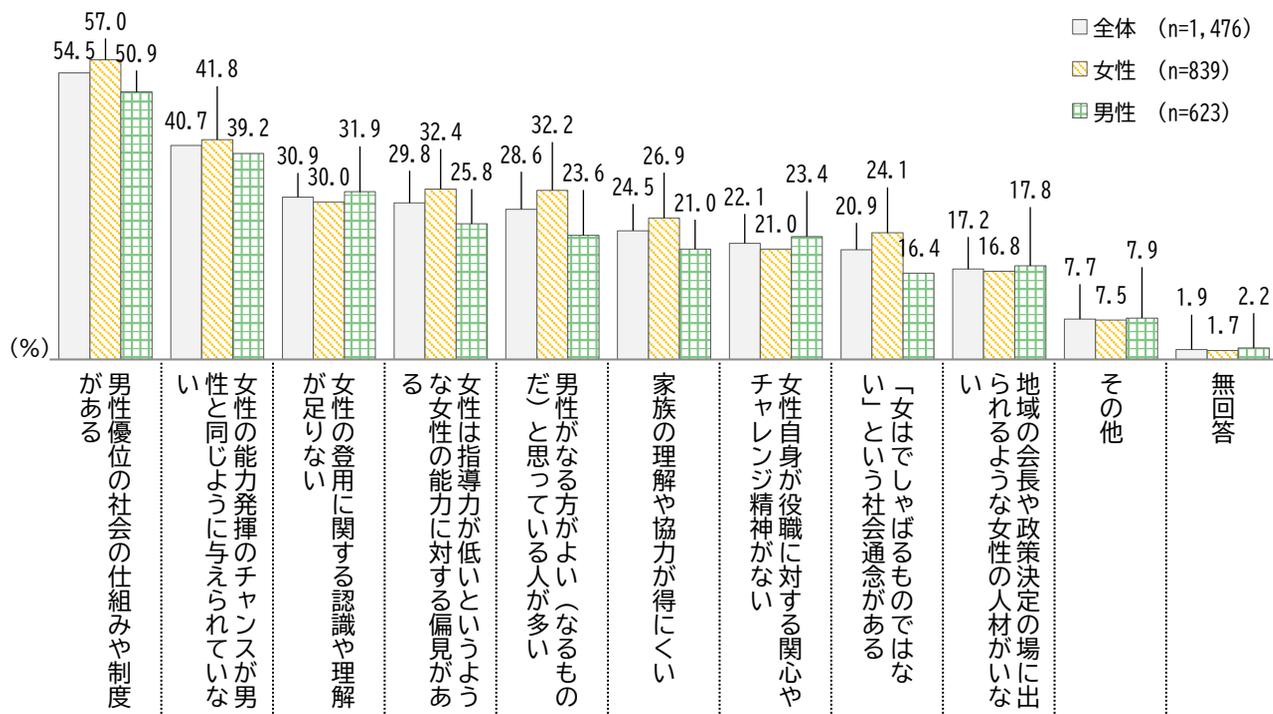
(n=1,476)



自治体や議員、企業の管理職への女性参画が少ない理由

女性の参画が少ない理由は何だと思えますか？

女性の社会参画（自治体の首長、議員、企業の管理職など）が少ない理由としては、全体では、「男性優位の社会の仕組みや制度がある」の割合が最も高くなっています。

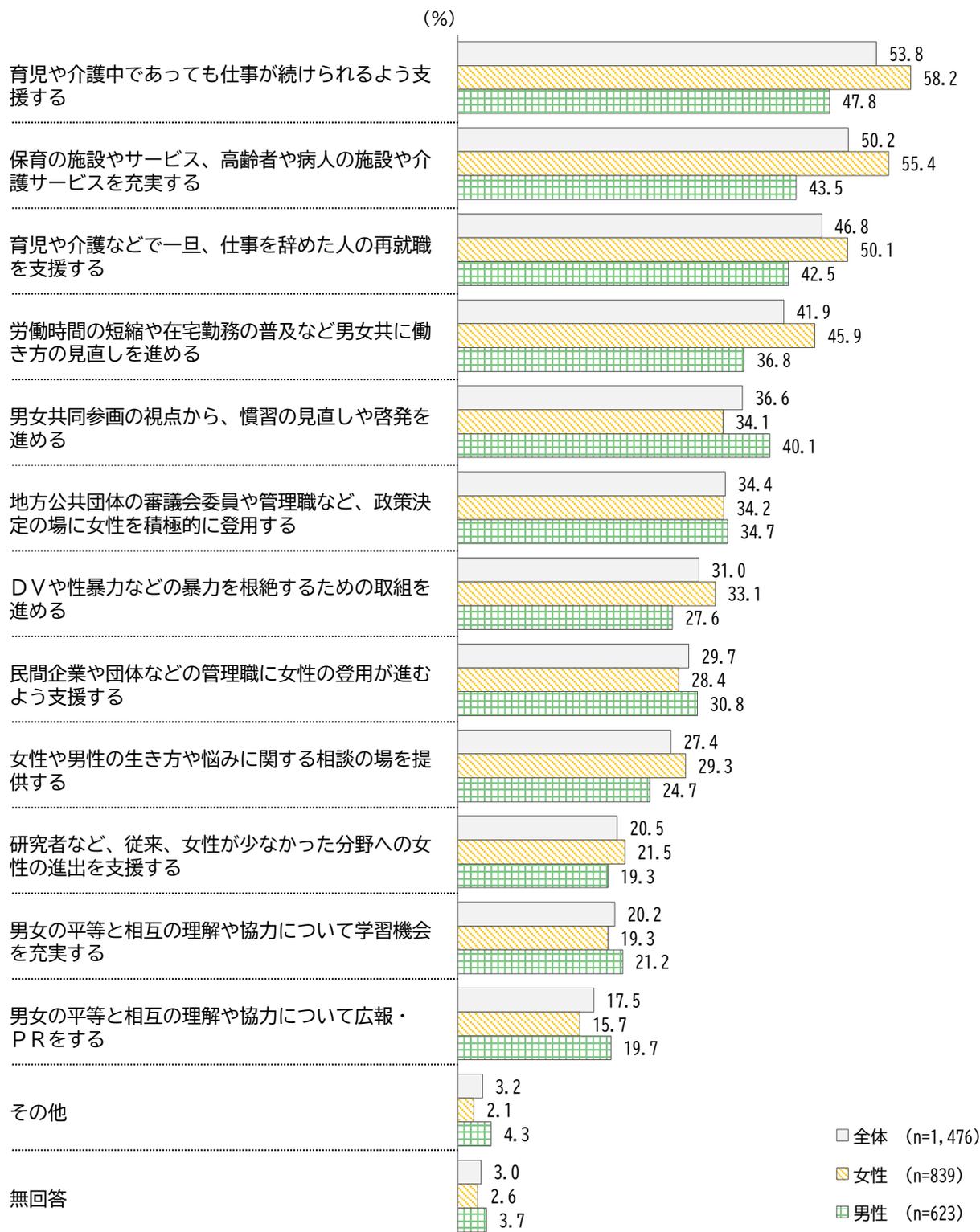


08 男女共同参画行政について

男女共同参画社会の実現に向けて行政が推進すべきこと

—男女共同参画社会の実現を目指して、今後、県や市町村はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか？—

- 全体では、「育児や介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」「保育の施設やサービス、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」で50%以上を占めており、男性より女性の割合が高くなっています。



調査の概要

調査の概要

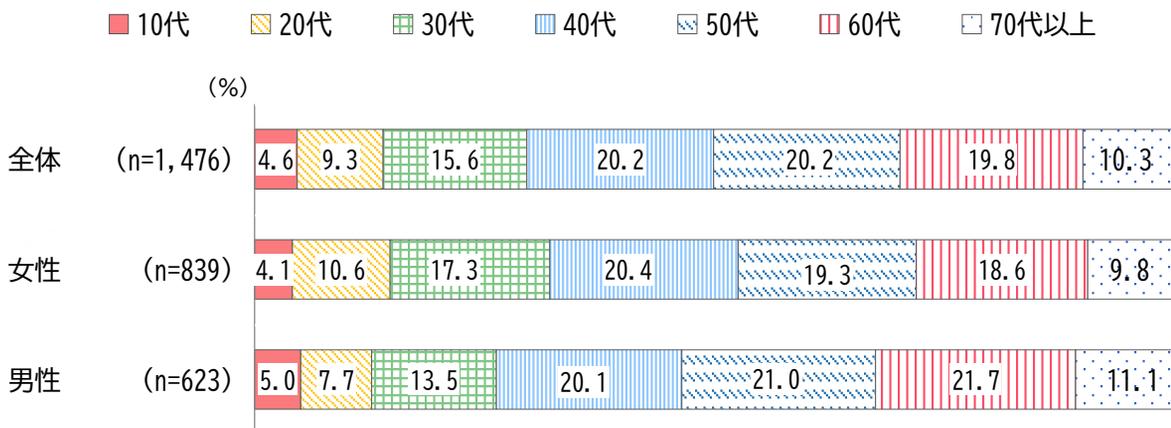
調査対象	3,800s（沖縄県内に居住する満18歳以上の男女）
抽出方法	層化二段無作為抽出
調査方法	郵送配布／郵送回収及びWEBアンケート回収
調査期間	2025年9月8日～10月5日
有効回収数（率）	1,476s（38.8%）

回答者の基本属性

性別



年齢



編集・発行：

沖縄県子ども未来部 女性力・ダイバーシティ推進課
〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎1-2-2
電話番号：098-866-2500 FAX番号：098-866-2589

令和8年2月発行